


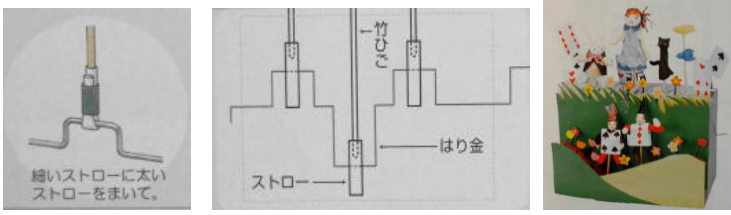


題材	I 附属小百景 -絵に表す-			4・5月(10時間)
目標	構図や配色, 絵の具の扱い方を自分なりに工夫して, 附属小の思い出の場所を表現する			
評価 規準	(①知・技)構図や配色などの表現の違いを見付け, 鉛筆や絵の具を適切に扱い, 自分なりの思い出の場所になるように形や色を工夫して表している。 (②思・判・表)季節や時間, 生活感を意識して, 構図や配色などを考えている。 (③主体的態度)附属小の思い出の場所を自分なりに描くことに関心をもち, 意欲的に取り組もうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であ う	1	○葛飾北斎による「富嶽三十六景」の作品を鑑賞し, 表現の特徴から, 構図や配色に関する視点について知る。  1 ○見え方のおもしろい場所や好きな場所の記録写真を撮影し, 学習の見通しをもつ。  — 学習のめあて — 思い出の場所を, 北斎のように構図や色を工夫してかこう	○表現の特徴を捉えることができるように, かかっているものや感じた事などを直接書き込める画像資料を用意する。  ○構図を工夫すると違って見えること, 配色を工夫すると印象が変わることなどが理解できるように, 同じ場所でも見え方が異なる写真を提示する。	◇3つの作品の表現の特徴を基に, 3つの作品に共通する「富士山」を強調するというテーマを捉えている。  <ロイロノート①>  ◇思い出の場所の見え方のおもしろさを考えたり, 自分なりのこだわりをもって表すことを考えたりして, 記録写真を撮っている。  <ロイロノート②>
あら わす ・ひ ろげ る	7	○構図を考えて, 画用紙に鉛筆で下がきをする。  ○水彩絵の具で着彩する。  	○描く場所の選び方や構図の工夫に気付けるように, 北斎の作品や複数の子どもの作品を提示する。  ○改めて色の工夫による効果を考えられるように, 配色を変化させた北斎の作品を提示する。	◇かきたいことが分かるように構図を工夫し, 形をよく見ながらかいている。  <行動・作品①>  ◇絵の具を適切に扱い, 色を確かめながらかいている。  <作品①>
ふり か え る	1	○作品に題名を付けて見合い, 自分や友達のイメージの表現方法を話し合う。	○自分なりのイメージと構図や配色の工夫を結び付けられるように, 自由に出歩いて話し合うことのできる時間を設定する。	◇題名の意図や表現方法の工夫について, 友達と話したり, 学習プリントに書いたりしている。  <作品・学習プリント③>
共通事項	自分なりの附属小の景色を表す活動を通して, 構図や配色などの特徴を捉え, 自分のイメージをもつ。			

題材	2 しわがたち -立体に表す-			6月(5時間)
目標	液体粘土で固めた布のしわや全体の形を見立てたり、生かしたりしながら、想像を広げて立体に表す。			
評価 規準	(①知・技)布のしわや全体の形の面白さを感じ取って、表したいものに合わせて表現方法を工夫している。 (②思・判・表)布のしわや全体の形の作り方を予想しながら、つくりたいもののイメージを膨らませている。 (③主体的態度)布のしわや全体の形のよさや美しさに関心をもって試行錯誤し、自分らしい見方や感じ方で表現活動に取り組もうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であ う	1	○動いているものが止まった一瞬を表す作品や写真を見たり、布を揺らしたりして気に入った形を見付け、学習の見通しをもつ。	○動いている一瞬を切り取った作品の面白さを感じられるように、躍動的な彫刻作品や動物が獲物を狩る瞬間の写真を提示する。	◇提示された作品や写真から、意図しない形の面白さに気が付き、記述している。 <b>&lt;ロイロノート③&gt;</b>
	1	○自分がつくりたいしわがたちを基に段ボールで土台をつくる  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">                     学習のめあて                      おもしろい“しわがたち”をつくろう                 </div>	○布の形の面白さから発想を広げられるように、ものにかぶせたり、ものをくるんだり、つるしたり、しばったりするなどの布の扱い方を試す機会を設定する。	◇布を形作る材料やかぶせ方、布の傾き等を繰り返し試して、つくりたい形をつくっている。 <b>&lt;行動②&gt;</b>
あら わす ・ ひろ げ る	2	○液体粘土に浸して成形し、自分のつくりたい形をつくる。  	○つくりたい形に合わせた表現方法を考えることができるように、必要な材料や用具十分に用意し、図工室の中心に設置する。  	◇つくりたい形に布を固められるように、段ボールや洗濯ばさみなどを効果的に用いて、布の形を変えている。 <b>&lt;行動①&gt;</b>
ふり か え る	1	○固まった形を様々なものに見立てたり、見付けた形を生かしたりして、向きや置き方を工夫して展示し、互いの形のよさや工夫について伝え合う。	○固まった形を様々なものに見立てたり、見付けた形を生かしたりできるように、固まった形を様々な方向から鑑賞する機会を設定する。	◇作品にあった展示場所を探し、その場で感じたことを話したり、記述したりしている。 <b>&lt;ロイロノート②&gt;</b>
共通事項	液体粘土で布を固めて見付けた形から、自分のつくりたい彫刻をつくる活動を通して、形や色に自分なりのイメージをもつ。			

題材	3 △空間(さんかく くうかん) -造形遊びをする-			7月(4時間)
目標	空間の奥行きに気を配りながら、正四面体をつなげてつくる。			
評価 規準	(①知・技)空間の奥行きを感覚的に捉え、材料が作り出す形の配置の仕方を工夫している。 (②思・判・表)空間の奥行きに気を配って、材料が作り出す形の組合せや配置を考えている。 (③主体的態度)同じ形が増える面白さを感じながら、同じ形を繰り返してつくる造形活動を楽しもうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○同じ形が増える面白さを感じながら、正四面体をつなげてつくり、学習の見通しをもつ。  学習のめあて 正四面体をつなげて、図工室をおもしろい空間にして楽しもう	○同じ形が増える面白さを感じることができるよう、ストローをホチキスで接合して正四面体をつなげてつくる機会を設定する。	◇ <b>正四面体をつなげながら、置き方や吊し方について友達と話したり、付け方を変えたりしている。</b> <行動・学習プリント②>
あらわす・ひろげる	2	○空間の奥行きに気を配って、つくったものの配置を考えながら、正四面体をつなげてつくる。	○つくったものを自由に配置し、視点を変えて空間全体を見ることができるよう、白い壁で囲んだ、空間を意識する場を設定する。	◇つくったものを様々な角度から眺めたり、友達と話し合ったりして、つくったものの置き方や吊し方に合わせて、テープを貼ったり、ひもで縛ったりしている。 <行動・作品①>
ふりかえる	1	○空間全体の題名と名前を書いた小さなシールを、自分が気に入った場所に貼り付け空間の中で気に入った場所を探す。	○自分が気に入った場所を見付け、友達と共有できるように、小さなシールを用意し、空間全体の題名と名前を書いて貼り付ける機会を設定する。	◇つくったものが配置された空間を、様々な角度から眺めて、自分が気に入った場所を見付けてシールを貼っている。 <行動・発言③>
共通事項	空間の奥行きに気を配ってつくる活動を通して、形や色、動きや奥行きなどを捉え、自分なりのイメージをもつ。			

題材	4 クランクシステム -工作に表す-			8・9月(6時間)
目標	クランクで動く仕組みに興味をもち、仕組みの動きを生かしたおもちゃやその表し方を工夫し、クランクで動くおもちゃをつくる。			
評価規準	(①知・技)ペンチを適切に使って、自分の考えた動きに合わせて、仕組みの角度や長さを工夫してつくっている。 (②思・判・表)クランクで動く仕組みを使った表現のおもしろさや工夫に気付き、クランクで動く仕組みを生かして表せそうなものを考えている。 (③主体的態度)クランクで動くおもちゃをつくることに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○クランクで動くおもちゃをつくることを知り、どんなものがつくれるかを話し合う。  ○クランクで動く仕組みや動きを意識しながら形や表し方を考え、アイデアスケッチをし、学習の見通しをもつ。  学習のめあて クランクの仕組みを生かして、面白い動きをするおもちゃをつくらう	○どんなものがつくれるのかを考えられるように、クランクで動く仕組みやそれで作った作品を提示する。  ○クランクの動きを意識しながら表すものを考えることができるように、机毎に動きを確認するためのクランクの仕組みを用意する。	◇動きを生かして動くものやその周りの様子をアイデアスケッチに表している。 <行動・学習プリント②>
あらわす・ひろげる	2	○クランクで動く仕組みをつくる。 	○クランクの形によって動きが変わることに気付くことができるように、できた仕組みの動きを友達と交流する時間を設定する。  ○動きを確かめながら、材料や用具を工夫して動く部分や飾りをつくることができるように、材料、用具コーナーを設置する。	◇クランクの動きを確かめながら、針金を加工したり、穴の位置を調節したりしながらつくっている。 <行動・作品①>
ふりかえる	1	○作品を見合い、形や色、作り方の工夫を見付ける。	○クランクで動く仕組みを生かした表現のおもしろさや表し方の工夫に気付くことができるように、できたおもちゃを動かして遊ぶ時間を設定する。	◇発想のおもしろさに気付き、学習プリントに表している。 <行動・学習プリント③>
共通事項	クランクの仕組みに働きかける感覚や活動を通して、動きの特徴を捉え、自分のイメージをもつ。			

図画工作科 6年

題材	5 伝統文化の楽しみ方 -鑑賞-			10月(2時間)
目標	鎌倉の代表的な文化遺産を鑑賞し、基本的な知識や見方を知り、そのよさや美しさを味わう。			
評価規準	(①知・技)鎌倉の代表的な文化遺産についての基本的な知識や見方を理解している。 (②思・判・表)自分の見たい文化遺産について調べたことを基に、修学旅行でどのように楽しむのかを考えている。 (③主体的態度)日本の伝統文化や美術作品に関心を持ち、進んで鑑賞しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○鎌倉の大仏など鎌倉の代表的な文化遺産についての画像を見て、感じたことや気付いたことを話し合う。	○鎌倉の文化遺産からよさや美しさを感じ取れるように、複数の資料を提示するとともに、自分の選んだ資料について気付いたことや疑問に思うことを自由に話し合う機会を設定する。	◇ <b>提示された資料を見て感じたことや気付いたこと、使われている材料や用具、技法などについて記述している。</b> <ロイロノート①②③>
あらわす・ひろげる	1	○鎌倉の代表的な文化遺産の資料から感じたことや気付いたことを基に、よさや美しさについて話し合う。	○様々な文化遺産や芸術作品について興味をもてるように、他の文化遺産について話し合っているグループと交流する時間を設定する。	◇ <b>様々な文化遺産のよさや美しさ、修学旅行の楽しみ方について、記述している。</b> <ロイロノート①②③>
ふりかえる				
共通事項	ビデオや写真を見る活動を通して、修学旅行で行く鎌倉の代表的な文化遺産や彫刻の森の作品の特徴を捉え、自分のイメージをもつ。			

図画工作科 6年

題材	6 感じて 「絵」 イイカンジ。 -絵に表す-			10・11月(7時間)
目標	手や体全体の感覚を働かせて、液体粘土や身边材と繰り返し関わり、手触りや画面の見た目などから感じたことを基に表したいことを工夫して平面に表す。			
評価 規準	(①知・技)材料や用具による表れ方や感じたことから考えたことを基に、自分なりの思いに合わせて材料や用具を選んだり、表現を工夫したりしている。 (②思・判・表)手や体全体で材料と関わり、手触りや画面の見た目などのよさや美しさを感じながら、自分の表したいことを思い付いている。 (③主体的態度)手や体全体の感覚を働かせて、感じたことを基に自分なりの思いを形や色で表す活動の楽しさを味わっている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	2	○液体粘土や身边材の表現を試し、手触りや画面の見た目から感じたことや考えたことを基に、自分なりの思いをもち、学習の見通しをもつ。  学習のめあて 液体粘土と様々な材料を組み合わせて、見た目も手触りも面白い作品をつくらう	○手触りや画面の見た目などの新たな造形的視点を得て、自分なりの思いを膨らませることができるよう、液体粘土や身边材と関わり、材料から感じる試しの機会を設定する。  ○手や体全体で繰り返し材料と関わり、材料や用具の特徴を感じながら、自分なりの思いに合わせて試すことができるよう、様々な材料を用意した材料コーナーを設定する。	○ <b>手や体全体の感覚を働かせて、感じたことや気付いたことを友達と話したり、材料や用具を選んだりしながら、自分の思い付いた作品のイメージに合わせて、表現方法を試している。</b> <行動・発言・学習プリント①>
あらわす・ひろげる	4	○液体粘土や身边材を選んだり、組み合わせたりして、自分の表したいものを工夫して表す。	○自分なりの思いに合わせて、切ったり、貼ったりするなどの様々な表現の工夫ができるように、支持体としてダンボール紙を用意する。  ○友達との自然な交流の中で、自分や友達の表現の工夫に気付き、自分の思いに合わせて表現を工夫することができるように、作品を乾燥させる机を教室中央に配置した場を設定する。	○ <b>作品の形や色の構成を変えたり、新たな材料を加えたりしながら、つくったり、つくりかえたりすることを繰り返している。</b> <行動・発言・作品・学習プリント②>
ふりかえる	1	○自分や友達の作品を見合いながら、表現の意図や工夫について話し合う。	○題材全体を振り返り、自分の見付けた形や色などのよさや美しさに改めて気付けるように、作品の題名と、その理由を記述する学習プリントを用意する。	○ <b>手や体全体の感覚を働かせて、感じたことや気付いたことを基にして、自分の思いを表現する楽しさや、表現に込めた思いを記述している。</b> <発言・作品・学習プリント③>
共通事項	液体粘土や身边材に触れて感じたことから、自分が表したいものの形や色のイメージをもつ。			

題材	7 光の彫刻 -立体に表す-			12月(4時間)
目標	材料を切ったり、付けたりして、光の効果を確かめながら、自分のイメージに合う光の彫刻に表す。			
評価規準	(①知・技)自分のつくりたい光の彫刻になるように、光の効果を予想したり、試したりしながら、メラミンスポンジの加工の仕方を工夫している。 (②思・判・表)メラミンスポンジの加工の仕方や形による光の効果の違いを捉えて、つくりたい光の彫刻を思い付いている。 (③主体的態度)繰り返し試したり、互いの作品を見合ったりしながら、自分や友達の作品のよさや美しさや、表現の工夫について感じ取っている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○メラミンスポンジの形によるLEDライトの光り方の特徴を知り、加工の仕方を試しながら、自分のつくりたい光の彫刻をアイデアスケッチに表し、学習の見通しをもつ。  学習のめあて メラミンスポンジの形を工夫して、面白い光り方をする光の彫刻をつくろう	○光のもつ美しさを感じ取ることができるよう、ペットボトルやビー玉などの今までの学習で使ったことのある光を通す素材と加工する前の直方体のメラミンスポンジを用意する。	◇様々な素材を光らせて光り方の違いを比較したり、メラミンスポンジの光り方の特徴について、友達と話したりしている。 <行動・発言②>
あらわす・ひろげる	2	○光の効果を予想したり、暗箱で確かめたりしながら、メラミンスポンジを加工し、自分のつくりたい光の彫刻をつくる。	○切ったり、光り方を試したりしながら、自分なりの光の彫刻を思い付くことができるように、加工が容易なメラミンスポンジを用意する。  ○光り方を確かめながら、自然に友達と交流して自分のつくりたい光の彫刻のイメージに合った表現の工夫ができるよう、活動の段階ごとの場を設定する。	◇メラミンスポンジの加工や光り方を試しながら、自分のつくりたい光の彫刻をアイデアスケッチに表している。 <アイデアスケッチ①>  ◇形や光り方について友達と話しながら、メラミンスポンジを切ったり、付けたりすることを繰り返している。 <作品②>
ふりかえる	1	○できた作品を光らせて鑑賞し合い、自分や友達の作品のよさや工夫について話し合う。	○自分や友達の作品のよさや美しさ、表現の工夫について気付くことができるように、全員の作品を胸の高さに展示した鑑賞する場を設定する。	◇自分や友達の作品のよさや美しさ、工夫などについて記述している。 <ロイロノート③>
共通事項	光り方を試しながらメラミンスポンジを加工し、自分のつくりたい光の彫刻をつくる活動を通して、形や色、光り方に自分なりのイメージをもつ。			

図画工作科 6年

題材	8 未来をのぞいたら -立体に表す-			1・2・3月(12時間)
目標	将来の自分を想像し、材料の使い方や紙粘土の加工方法を工夫して、希望や自分なりの思いを込めて立体に表す。			
評価規準	(①知・技)自分の思いに合わせて、モデリングを中心に粘土で人物や周りの情景を表したり、材料の接着・接合の仕方を工夫したりしている。 (②思・判・表)自分の将来の姿を想像し、人物とその周りにあるものの大きさや配置などを考えて空間を構成したり、材料の形の生かし方を工夫したりしている。 (③主体的態度)互いの思いを尊重しながら将来の夢や願いについて交流し、表現の工夫や作品に込められた思いを共感的に共有する。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○友達と未来について話しながら、ちょっと未来の自分の姿を思い浮かべ、表したい様子やイメージをもつ。	○自分とその周りの情景を立体的に表現することに興味をもてるように、参考作品を提示する。	◇動きのある人物を表すことに興味をもち、粘土や身近な材料を使ってつくる活動に取り組んでいる。 <行動③>
	1	○表したい場面を考え、簡単なスケッチをして、人物や情景の置き方を考え、学習の見通しをもつ。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     学習のめあて                      自分の未来の姿についてイメージを広げ、粘土で表そう                 </div>	○自分の生活や夢などから表したい場面を選ぶことができるように、様々な場面について話し合う時間を設定する。	◇人物の動きが表れるようなポーズや人物がいる場所を想像し、人物と周りのものの大きさを考えてアイデアスケッチをかいている。 <行動・学習プリント②>
あらわす・ひろげる	2	○友達にポーズをとってもらいながら、手足の曲がりや方向、体のひねりなどを捉えて芯をつくり、板の上に固定する。	○人間の体は関節の部分で曲がるということ意識して芯がつくられるように、ペアでポーズを取り合う機会を設定する。	◇人物の動作が分かるように針金を加工し芯をつくり、釘で土台に丈夫に固定している。 <行動・作品①>
	2	○頭や胴体、手足などの大きさのバランスを考えながら、粘土をつけていく。 ・作品を様々な方向から見て粘土をつける。 ・人体のバランスに合わせて、大まかな塊で粘土をつける。	○人物の動作の特徴に気付くことができるように、友達をモデルにしなが、作品をいろいろな方向から見合い、助言し合う機会を設定する。	◇自分の思いに合わせて、粘土の剥離に気を付けながらモデリングし、形を表している。 <行動・作品①>
	2	○粘土や身近な材料を使って人物の周りの情景をつくる。 ・絵の具で彩色し、ニスを塗る。	○自分の願いが伝わるように配置や大きさのバランスを試しながら、情景をつくることできるように、材料コーナーを設置する。	◇材料の使い方や接着・接合の仕方を工夫して、周りの様子を表している。 <行動・作品①>
	1	○互いの作品の意図や見え方を考えながら、作品を展示するスペースを協力してつくる。	○互いの作品に込められた思いや、作品の雰囲気に合わせて作品の展示計画が立てられるように、互いの作品を見て話し合う機会を設定する。	◇展示された作品が美しく見えるように色や形を考えて展示スペースをつくっている。 <行動・発言②>
ふりかえる	1	○作品を見合い、人物の動きや情景の表し方の工夫を見付ける。	○アイデアのおもしろさや表し方の工夫に気付けるように、互いの作品を紹介し合う機会を設定する。	◇表し方の工夫や作品込められた思いや願いに気づき、友達と話したり記述したりしている。 <行動・学習プリント③>
共通事項	自分の将来を想像したり、作品に思いや願いを込めてつくったりすることを通して、自分なりの意図を色や形で表しながら自分のイメージをもつ。			